

## 『すべての基を神に！！』

～あなたの内側は本当に生きていますか？～

ルカ 12:1～12

神はどんな人間でも、神を信じる人々を見捨てたりはしません。しかし、神は私達の心の中心がいつも燃えているのを願っておられます。あなたはどうでしょう。いつも燃えていますか？燃えているフリをしていませんか。私達の心の炎が見せかけや偽りでは自分も周りに居る人も幸せにはなりません。自分は今、どのような炎を心に持ち、周りにどのような影響を現していますか。私達は外側ばかりを着飾るのではなく、内側から変るべきです。人に何かを言われ、それで気付く事も大切です。しかし、そればかりでは心の中の炎を燃やし続ける事はできません。内側におられる方から自らで声を聴き、内側から元気を得て、変化していく事をしなければ自分の本質を変える事はできません。ですから、聖書に私達の内側で働いて下さる聖霊を汚してはならない。と書いてあるのです。(ルカ 12:10) 聖霊を汚す行為とは、パリサイ人のとった行動に例える事ができます。パリサイ人はイエス様が救い主だと途中で気がつきました。それなのに気付いた事を無視してイエス様を十字架に架けました。この様に自分の内側で聴いた事を無視してイエス様を欺くような決断をする事が聖霊を汚す事になるのです。私達が全てを神の基とする為に**①あなたは誰に聴く？**心静まって考える時、必ず2つの声があるのではないのでしょうか。はっきりと權威を持って語ってくれる声と決断を迷わすような声…。そのどちらを聴くかは私達にかかっています。耳元を神の声を受け取れるように整えなければなりません。(ルカ 12:11～12) あなたは未だに人の声だけで変ろうとしていませんか。内側の声に耳を傾けなければ生きたしかばねになりかねません。(ヘブル 3:15～19) **②あなたはどこに行く？**(エペソ 4:17～24) 目的を失うとエペソ 4:18,19 のようになってしまい結果神から離れてしまいます。もし、無関心になっているのなら無関心な心を回復させなければなりません。自分の為に何かをすることは惜しまないが他人には出来ない。それが無関心です。あなたは無関心になっていないのでしょうか。無関心は自己中心にさせます。罪の根源は自己中心です。自由は自分でしっかりと決断し、内側から力を受けてしっかりと歩む事です。**③あなたは誰に言う？**(ガラテヤ 6:1～10) 自分に嫌な事が起こると人に話し、同調を求めます。人の痛みを引き受け直す事は大切ですが、同調とは違います。自分の痛みを正直に打ち明け、請け負ってもらい、そして相手の痛みをしっかりと受け止め聴くべき人にしっかりと聴き、打ち明け歩いていく事、教会はそれができるから素晴らしいのです。これらのポイントを大切に全ての基を神に置く事が出来れば、私達は生きるのです。